

黄斑円孔手術前後の歪視と網膜移動量、網膜厚の変化 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属溝口病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2020年12月9日～2023年3月31日

〔研究課題〕

黄斑円孔手術前後の歪視と網膜移動量、網膜厚の変化

〔研究目的〕

黄斑円孔術後の歪視に対する網膜移動量、網膜厚と背景因子の関連を評価します。

〔研究意義〕

黄斑円孔、黄斑上膜や黄斑浮腫などの疾患に対する硝子体手術では、黄斑を含む後極網膜の内境界膜剥離が広く行われています。2014年に私たちは、黄斑円孔に対する内境界膜剥離を用いた硝子体手術後、黄斑円孔の閉鎖に黄斑の耳側網膜が視神経乳頭側へ移動すること報告しました。さらに2018年には、黄斑円孔術後早期に鼻側の網膜厚は術後1年にわたり変化しなかったものの、耳側と上下の網膜厚は菲薄化することを報告しました。今回私たちは、黄斑円孔前後の網膜移動量、網膜厚と歪視量を追跡し、歪視の経時変化、網膜移動、網膜厚との相関、歪視改善に関与する因子を解析評価することで、黄斑円孔術後の長期予後の予測が可能となります。

〔対象・研究方法〕

帝京大学医学部附属溝口病院眼科において2017年4月1日から2019年11月30日までに帝京大学医学部附属溝口病院眼科で黄斑円孔の手術を受け、その後1年間経過観察することができた患者様です。対象人数は30から50名です。あなたの年齢、性別、糖尿病・高血圧の既往、角膜曲率半径、屈折、視力、眼圧、眼軸長、M-CHART、アニセイコニア、光干渉断層計で測定した網膜脈絡膜像を診療記録より収集します。この研究のために新たに検査する必要はありません。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属溝口病院 眼科

〔個人情報の取り扱い〕

あなたのカルテの個人情報をこの研究に使用する際には、あなたのお名前の代わりに研究用の番号を付けて取り扱います。あなたと研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定し、帝京大学医学部附属溝口病院眼科内のインターネットに接続できないパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋は、同分野の職員によって入室が管理されており、第三者が立ち入ることはできません。この研究によって取得した個人情報は、帝京大学医学部附属溝口病院・講師 竹山 明日香の責任の下、厳重な管理を行い解析が行われます。

また、この研究の成果を学会で発表したり、医学論文にする場合にも、あなたが特定できる情報を使用す

ることはありません。

〔その他〕

追加となる検査はありません。ご負担やお支払いの必要もございません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究実施責任者：	帝京大学医学部附属溝口病院眼科	教授	今村	裕
研究情報管理責任者：	帝京大学医学部附属溝口病院眼科	講師	竹山	明日香
研究分担者：	帝京大学医学部附属溝口病院眼科	講師	竹山	明日香
	帝京大学医学部附属溝口病院眼科	助手	柴田	匡幾
	帝京大学医学部附属溝口病院眼科	助手	小宮	有子
	帝京大学医学部附属溝口病院眼科	助手	藤本	太一

住所： TEL： 044-844-3333 （代表）〔内線 8112〕